組合だより

第４２号
１１月１１日
２００２年

発行所
岡山大学職員組合
〒 700-8530　岡山市津島中 2-1-1
電　　話　086-252-1111（代）
（内線）7168
直通・ＦＡＸ　086-252-4148

岡山大学職員組合ホームページ　http://hb4.seikyou.ne.jp/home/ODUnion　メールアドレス　ODUnion@mb4.seikyou.ne.jp

特集　教研集会への挨拶

４０号で９月の教研集会の概略をお知らせしました。このほど全大教教研史上初めてとなる地元大学学長の歓迎挨拶と、実行委員長挨拶をご紹介します。小見出しは、「組合だより」編集部が適宜つけたものです。

河野岡大学長挨拶

ただいまご紹介いただきました岡山大学の学長をしております河野でございます。本日は、日本各地から多数の方々が、岡山、あるいは岡山大学においでいただきまして大変ありがとうございます。岡山大学を代表して心から歓迎を申し上げる次第です。

看板と、のぼりで歓迎

第三の大学維新

今回の全大教の教職員研究集会のメインテーマは、国立大学の法人化と大学改革、あるいはそれに関連するいろいろな問題であろうと想像いたします。また見せていただいたプログラムにもそのような内容のことが示されております。

歓迎挨拶の河野伊一郎学長

言うまでもなく、いま日本の大学は大転換期に来ているという認識は共通のところだろうと思います。その一つは、国立大学の法人化という形になって表れてきているという解釈もできます。それも含めて、日本が国際社会に置かれている状況、使命、また日本社会の変化、若者の意識の多様化等々がありますす。私の年代の人間は数パーセントが大学で勉強している時代でしたが、どんどん変わりまして、今は約半分が大学に入って勉強する時代になっています。そういう変遷に対応して最近数十年で大学の状況、あるいは内容、必要性が大きく変わるべきであったところが変わっていないところに非常に問題があるわけです。個々に申し上げませんが、そういう意味で、よく言われているように、近代日本になってからの第三の大学維新でなければならない。明治に帝国大学ができて、戦後に新制大学ができた。そして今こそそういう意味で第三の維新にならなければならない。こういう認識をお互いに持たなければならないと思っています。

安易な妥協でなく

本会のご案内を、加藤実行委員長並びに小畑岡山大学の委員長からいただきまして、大変うれしく思いました。先程委員長からもお話がありましたように、立場は違いますが、お互い大学をよくするためにがんばる、協力することはもちろんです。それは決して安易なる妥協ではないことは、お互いによく確認をしています。もちろん戦争しているわけではない、敵対しているわけでもありませんから、安易な妥協をすることなく、緊張感を持ってこれからお互いに議論を進めていって、その結果、大学が立派なものになればいい。こういうふうに考えております。

私の組合活動

私も若かりし頃に組合活動をいたしました。執行委員ではありませんでしたが、非常に激しく活動していた時代を懐かしく思います。当時、私は京都大学にいたんですが、学生紛争が大変激しい時でした。それが終わって大学の方向がどうなるのかと、われわれ若い教官は非常に不安を持っておりました。そういう意味では共通の状況にあると思います。私は当時の執行部にも非常に激しく物事を言ったりしました。しかし終わってから、執行部の人とよく酒を飲みにも行きました。それは決してそこで妥協したり取引き話をするわけではなくて、同じ職場の同僚としてよい人間関係ができたように感じています。

余談で申し訳ありませんが、私の両親は農業をしており、非常によく働く人間だったんですが、お互いよく激論をしていました。そして翌日には二人で仲良く仕事に行く。よくあんなことができるものと、子供の頃、私は不思議に思っていました。そういうことと重ね合わせながら、お互いに大学をいいものにしたいと考えながら、立場が違えば見方も違う。その時は真剣に議論し合って築き上げていくものであると思っています。

先程から委員長や実行委員長のお話にもありましたように、岡山大学はそういうことでお互い緊張感を持って議論をしていきたいと思っております。

国大協の活動

いろいろお話がありますが、国立大学の法人化について、国大協においても大いに議論をしています。国大協会長の京都大学の長尾学長は私の高校時代の先輩ですし、副会長の名古屋大学の松尾学長は学生時代に机を並べて勉強した間柄ですから、私もいま理事とし

て一生懸命いろいろなことを発言しています。いくつかありますが、平成１６年には法人化が既定事実ということが言われています。私もそう思います。

しかし、現実には、法人化についてこれまでまったく国会の正式の場では議論されていません。それなのに一方では文部科学省があれもこれも各大学で準備しなさいと言う。文部科学省としては現段階ではどういう準備をしているのか。先程職員組合から、学長にもっと情報公開しろという話はおっしゃったとおり、私どもはもっと文部科学省が具体的にこういうことをいま制度設計として準備している、これを法案とするんだという情報公開をもっとしてほしい。１か月ぐらい前に長尾会長談話として、文部科学省はもっと具体的に、いま準備している情報を提供してほしいと申し入れをしています。

それからもう一つ、先程お話が出ましたように、すべての大学の教職員は非公務員型になるということを前提に進めるということが、この段階で出て参りました。これは私にとっても本当に心外です。国大協の専門委員会では、公務員型とすべきであると強く主張していました。教員の場合は百歩譲ってしようがないけれども、事務系職員の場合は、例えば採用の件とか人事交流とかいろいろな面を考えれば、公務員型で残さなければならないということを国大協で強力に主張しておりました。しかし、結論はご存知のとおりです。

そういうことであればそれを前提に、国大協では職員の採用方法をどうするのか、人事交流のシステムをどうするのか、研修をどうするのか、あるいは就業方法や待遇をどうするのか、国大協をどうするのかという検討会も鋭意やっております。

若い人に意欲を

国大協としても大学をよくするために一生懸命やっているつもりです。しかしまた、職員組合の皆さんから厳しいご意見、見方を聞かせていただいて、改めるところは改めなければいけないとも思っております。お互いに厳しく意見を交換しつつ、しっかりした大学をつくり、日本のため、国際社会のために貢献していくという理想は高く掲げなければならない。

そして、いまの若い人達が将来に希望を持てない、夢を持てないこれが一番深刻で重要な問題だと思っています。学力の低下が問題となっていますが、人間、夢や希望がなかったらエネルギーが出てきません。勉強する意欲の問題です。学力は知識だけではなくて、勉強しようとする意欲が大切ですから、そういう大学・高等教育をしていくためにお互いに努力していきたいと強く念願しております。

加藤実行委員長挨拶
「晴の国」へようこそ

挨拶する加藤実行委員長

いろいろ申し上げましたがこの会が盛会にしてこの会がありますものとなりますよう祈念申し上げ、挨拶とさせていただきます。どうもありがとうございました。（拍手）

さて大学では

こうしたロマンあふれる話でご挨拶を終われるといいのですが、現代の大学の状況はきわめて厳しいと言わざるを得ません。文部科学行政のために、本来自由の府であり知の共同体である大学が、変質の危機にさらされています。今日はこちらに来賓として河野学長においでいただいております。私どもの岡山大学は８年前に教養部廃止いたしまして、１１番目の学部である環境理工学部を設けました。その際に、教養教育をめぐってかなり混乱が生じました。教養教育をめぐっては、いまだに試行錯誤を続けています。そのさ中独法化とか、トップ３０対応とか、大学・学部の再編・統合、評価と競争原理の導入という課題が矢継ぎ早に投げかけられ、そのうえ教育学部再編、法学部ロースクール構想、大学院改革さらに環境総合研究科という独立大学院構想までが出されています。

情報公開を

そういうことで特に中期目標、中期計画策定を急がないといけないわけですが、学長先生には広く情報を公開していただいて、学内の幅広い意見を反映していただけるように要望したいと思っております。

また独法化―非公務員型がほぼ決まってしまうという中で教職員の雇用問題が出てきました。名大ネットには総長発言として、「教職員の雇用の継続は基本原則」「定員外と定員内の差別はしない」という明快な意思表示がされていますが、本学では、今年の３月末に事務局長名の文書が発信されまして、「平成１５年度から日々雇用職員は原則として雇用しない」旨の通達が出されました。

組合としては事務局長との会談を行い、事務局サイドから、「可能な限り、雇用を確保する方向で努力したい」という発言を得ることができました。

以上が岡山大学職員組合の現状です。この激動期に北は北海道から南は沖縄まで、７７大学、約１９０名のご参加を得たことは、たいへん意義深いことです。今日から３日間熱心にご議論いただくことをお願い申しあげて、挨拶に代えさせていただきます。ありがとうございました。（拍手）

皆さん、こんにちは。岡山大学へようこそおいでくださいました。今回の教研集会の地元実行委員会の委員長を務めております加藤です。地元を代表して歓迎のご挨拶を申しあげます。

岡山を簡単に紹介させていただきますと、岡山は通称「晴れの国」と言われ、降雨日数が非常に少なく、太陽の恵みを受けて、ブドウ、モモが特産品になっています。

ただ晴れすぎるのも問題があり、今年の夏は雨が少なくて、倉敷の高梁川の水不足が懸念されています。ただ岡山の水源である旭川は非常に懐の深い川でして、まったく心配ありません。３日間安心してご滞在いただければと思います。

古い歴史もあります

それから、岡山という と後楽園、あるいは倉敷の美観地区が有名なところになりますが、いずれも江戸時代にさかのぼる名所です。それ以前の岡山にもずいぶん活躍していた時代がありました。という のは古墳時代ですが、この近辺には主要古墳だけでも三十いくつあります。吉備の国は大和朝廷に匹敵するような勢力を誇っており場合によっては大和朝廷を排除したのではないかという説もあります。もしも時間がありましたら、吉備のほうにもおいで下さい。造山古墳という日本第４位の規模の古墳があり、当時の繁栄ぶりを偲んでいただくことができると思います。

おしらせ　**ホームページが新しくなりました。**　**http://hb4.seikyou.ne.jp/home/ODUnion**

徐々に充実させていきます。

教職員共済の交通災害共済新規加入のおすすめ

※共済期間　2003 年 1 月 1 日～ 2003 年 12 月 31 日
※申込期限　2002 年 11 月 20 日までに申込はがき投函
各種パンフレットは組合事務所にあります。

交通事故だけじゃない
普通のケガでも・・・・